

令和 4 年度
事業報告書

社会福祉法人 上田明照会

目 次

ページ

1～2 法 人

3～4 甘露保育園

5～7 蓮の音こども園

8～9 ともいき宝池慈光

10～11 ともいき宝池和順

12～13 ともいきライフ月影

14～15 ともいきライフ住吉

16～17 上田明照会グループホーム

18 相談支援センター ほっと

令和4年度 社会福祉法人 上田明照会 事業報告書

1. 理事会・評議員会等の開催状況

| | 開催年月日 | 出席人数 | 決議事項 |
|------|-------------------------|-----------------------|--|
| 理事会 | I 令和4年5月30日 【書面決議】 | 理事6名 監事2名 | ①令和3年度事業報告について ②令和3年度決算報告について ③令和3年度監査報告について ④給与規則等の変更について ⑤運営規程の変更について ⑥会長の職務執行状況の報告について |
| | II 令和4年9月22日 | 理事6名 監事2名 | ①育児休業に関する規則等の変更について |
| | III 令和4年11月9日 【書面決議】 | 理事6名 監事2名 | ①令和4年度第一次補正予算について ②施設長等の選任について ③会長の職務執行状況の報告について |
| | IV 令和5年3月10日 | 理事6名 監事2名 | ①令和4年度第二次補正予算について ②令和5年度事業計画について ③令和5年度当初予算について ④給与規則等の変更について ⑤施設長の異動について ⑥評議員会の開催について |
| 評議員会 | I 令和4年6月14日 【定時評議員会】 | 評議員7名 理事6名 監事2名 | ①令和3年度事業報告について ②令和3年度決算報告について ③令和3年度監査報告について ④給与規則等の変更について ⑤運営規程の変更について |
| | II 令和4年11月17日 【書面決議】 | 評議員7名 理事6名 監事2名 | ①令和4年度第一次補正予算について ②施設長等の選任について |
| | III 令和5年3月20日 | 評議員7名 理事6名 監事2名 | ①令和4年度第二次補正予算について ②令和5年度事業計画について ③令和5年度当初予算について ④給与規則等の変更について ⑤施設長の異動について |

[監事監査]

令和4年5月26日 令和3年度 監査実施

令和4年度の理事会及び評議員会の開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を都度踏まえながら、昨年度と同様に短時間での集合開催、若しくは書面決議にて開催した。

2. 令和4年度 法人重点項目の取り組みについて（報告）

① 利用児者主体の支援サービスの充実

令和4年度は多くの事業所において新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、その感染対策と感染拡大防止に心血を注ぐ一年であった。特に入所施設の利用者には生活上の不便をかける事も少なくなかったが、厳しい局面をそれぞれの立場、役割の中で乗り越えてきた。

利用児者主体の支援への取り組みは、事業所毎に専門職としての倫理意識の根幹として、人権意識を持つ関わりについて熟慮している状況にある。法人としても事例検討会や研修等の機会を通して、すべての利用児者への質の高いサービス提供の保証を目指す。限られた時間と人員の中で、利用児者優先の支援がしたくてもできにくい実態もまた事実としてある。このような背景が支援者のストレスを生み、支援を管理的にせざるを得ない可能性も否定できない。支援者の置かれた状況も踏まえ、安心できる職場環境の在り方について、支援サービスの質の確保と並行して検討していく。

② 人材育成と職場環境の整備

人材確保については、求人情報サイトからの問い合わせ等に随時対応し、採用試験についても適宜開催し、学卒者8名の確保に至った。人事構成が不透明な段階での内定となるが、最終的には採用数より退職数が上回り、人員の確保は年度をまたいでも継続するに至った。

令和4年度も研修等はオンラインの活用が主となったが、各事業所の研修計画に基づき、学びの機会を継続して確保することができた。また初めての試みであったが年度当初に職員全員を対象に目標管理シートを作成し管理者が共有した。個人の目標を明確にした上で年度をスタートさせ、年度途中の管理者との面談の機会に進捗状況を確認しつつ、年度終わりに自己評価してもらった。個々人の目標設定の在り方は様々であるが、意図的に業務に携わる事は重要であり、その内容の一部は職場環境の検証にも役立った。

③ ICT（情報通信技術）の研究と活用に向けての取り組み

◎ホームページの活用・・・リニューアルして1年が経った。広報委員会と事業所が連携し、定期的なブログ更新にも取り組んでいる。法人をアピールする媒体として、魅力ある発信に努める。

◎業務省力化に向けたICT導入（特に甘露保育園）については、補助金申請のタイミングに合わせて導入する準備を始めた。業務省力化の具体的内容としては、保護者との情報共有、日々の記録、登降園時間の管理等を当面の活用目標とする。

まとめとして

新しい生活様式が定着し、これまでの業務（利用者の暮らし方や支援等）のあり方について必然的に見直しが迫られた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大などにより、生活課題は複雑化・多様化している。当法人もご多分にもれず人材の採用・育成・定着について大きな課題を抱えており、限られた人員の中でサービスの質の向上若しくは維持、改善を再考するなど、日々の業務改善等の見直しの必要性を認識している。サービスの質の向上を業務改善の上位目的とすると、取り組みの意義は「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」であると言われている。管理者を中心に着手可能な分野から具体的に取り組みを始め、明るく働きやすい職場はいかにあるべきか、働く職員一人ひとりのモチベーションを向上させていくために必要な事はなにか等、次年度の課題として共有していく。

令和4年度 甘露保育園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 90名

《職員》 園長 主査 主任 保育士 看護師 栄養士 調理員等

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

| 月 | 開園日数 | 在籍園児数 | | | | 合計(人) | 在所率(%) |
|----|------|-------|-----|-------|-----|-------|--------|
| | | 4歳以上児 | 3歳児 | 3歳未満児 | 0歳児 | | |
| 4 | 25 | 44 | 21 | 31 | 3 | 99 | 110 |
| 5 | 23 | 44 | 22 | 33 | 3 | 102 | 113 |
| 6 | 26 | 44 | 22 | 33 | 4 | 103 | 114 |
| 7 | 25 | 44 | 22 | 33 | 6 | 105 | 117 |
| 8 | 23 | 43 | 23 | 32 | 7 | 105 | 117 |
| 9 | 24 | 43 | 23 | 33 | 7 | 106 | 118 |
| 10 | 25 | 43 | 23 | 34 | 7 | 107 | 119 |
| 11 | 24 | 43 | 23 | 35 | 9 | 110 | 122 |
| 12 | 23 | 43 | 23 | 35 | 9 | 110 | 122 |
| 1 | 23 | 43 | 24 | 36 | 9 | 112 | 124 |
| 2 | 22 | 43 | 24 | 36 | 9 | 112 | 124 |
| 3 | 26 | 43 | 24 | 36 | 9 | 112 | 124 |
| 計 | 289 | 520 | 274 | 407 | 82 | 1,283 | 118.8 |

市町村別内訳 上田市 1,283人

3. 年間行事等実施状況

| 月 | 内容 |
|----|--|
| 4 | 入園式・花見散歩・稚児出仕・個別懇談 |
| 5 | 花まつり・個別懇談 |
| 6 | 交通安全教室・保育参観(幼児組)・プール開き・みそづくり(地域交流) 保護者会作業 |
| 7 | 七夕まつり・夏まつり・幼児組参観日 |
| 8 | 魂まつり・1期終業式 |
| 9 | 観劇会 |
| 10 | 運動会(クラス毎実施)・合同避難訓練・みそ開き(地域交流)・秋の遠足 |
| 11 | 感謝訪問(勤労感謝)・保育参観(幼児組) |
| 12 | 成道会・成道会お祝い発表会・防犯訓練・クリスマス会・2期終業式 もちつき会 |
| 1 | ものづくり・どんど焼き・個別懇談会(幼児組) |
| 2 | 豆まき会・涅槃会・新入児連絡会(2回)・懇談会(2歳児) |
| 3 | ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式 |

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

4. 職員研修

県及び市保育園連盟主催、私立保育園協会主催各種研修会はコロナ禍の影響で人数を制限して実施またはオンラインでの研修となった。

また、オンライン研修(ホイクテラス)を継続し、職員が時間を見つけ計画的に園内で受講した。研修会場等への移動がないことや時間を有効活用できることは職員の負担軽減にもつながっている。

5. 施設整備

遊具定期点検の実施

6. 援助結果及び課題

① 保育・・・子どもの主体性を尊重する保育の充実

I あそびの選択やつながりのある保育を考えた環境構成について工夫する

子どもの主体性の尊重については継続して取り組んでいる援助であり、“子どもは自ら学び、成長していく存在である”との認識を持ち、子どもが抱く興味・関心に基づく「やってみよう」の意欲を最大限に尊重できるように努めている。子どもの意欲を尊重しつつも、その年代に経験してほしい実体験や見聞を広げるための働きかけについては保育者側が常に準備しておく必要がある。安心・安全を確保しながら自由度を高め、なおかつ成長を促す環境づくりは難しいが園児と職員と一緒に試行錯誤しながらも保育を進めていけるようにしていく。コロナ禍における保育のなか、すべてに制限をかけるのではなく年代に応じて経験してほしい行事や保育に対して、どうすれば可能になるのか職員同士が創意工夫しながら必要な保育の提供に努めていく。

I C T導入について、来年度導入に向けて備品購入やネットワーク環境整備等準備を進める。

II インクルーシブ保育(ともに育ち合う)

各クラスから報告される「配慮が必要な園児への共通理解」について、全職員で情報共有した配慮点に基づき意識的な関わりを継続するなかで発達を追い上げそれぞれの成長が確認できるが、クラスを越える関わりはまだ希薄であり、職員にはすべての園児が“かんろっこ”という意識づけも必要になっている。その他援助を必要とする園児については、個別支援計画を導入し年3回保護者と確認・共有をしている。蓮の音こども園の園児との交流は、年少年中合同クラスに入りクラスの仲間として年間を通して同じ活動を積み上げてきた。感染対策のため交流の機会は制限されたが今年度も運動会・成道会お祝い発表会にともに参加しクラスの一員として溶け込み、子ども同士も同じ仲間という意識が芽生えていたように感じた。こういった取り組みは、必ず園児たちの記憶に残り続け良い影響を与えると考える。保育園児にとって蓮の音こども園児が特別な存在(お客さん)ではなく、一緒にいるのが当たり前になるように今後も共生社会の構築を目指す取り組みは継続していく。

② 家族支援・・・家族連携と保護者支援の充実

様々なバックボーンを持つ園児一人ひとりを中心に置きながら、家族との関係性も良好に信頼関係を築けるよう努めた。当園での幼児組保護者を対象とした「保育参加」は5年目を迎えたが、多くの期間をコロナの感染対策として中止したためほぼ実施ができなかった。保育の現場を実際に見て・感じてもらうことはご家族との関係構築に有益であるため今後も継続していく。コロナ禍により保護者とのコミュニケーションが希薄になってしまっているため、保育者との関係構築に向けた働きかけは継続していく。

③ 食育・・・食を通じた保育

コロナ禍において、和気あいあいとした給食場面でのやり取りが今年度も制限された。安全であり、健康に育っていく主体として機能向上とともに楽しむ食体験を積むための工夫とアレルギー等の除去食や窒息・誤嚥防止のための食事提供方法の煩雑化により、業務にあたる職員は毎回緊張を強いられる状況が続いている。畑作業は園庭で行うようにし、野菜が育つ過程において子どもたちから湧き出る疑問を子どもとともに考え試すなかで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)のうちの数量、図形、文字への関心の学びが含まれているが、栽培にあたり生育・管理方法について職員が知識を深める必要があった。

④ 地域との関わり

新型コロナウイルスの影響により、予定していた行事の企画実施が困難であった。年間を通じて、おもちゃ図書館3回、かんかん広場3回のみ開催に留まった。園開放の機会が奪われることで家族の保育園選びの選択肢が減ってしまう現状があり、入園申請前に個別で園見学の対応をしたが、今後どのような企画であれば地域との交流が継続できるのか、地域の子育て支援を行う保育所として地域に向けて何をどのように発信していけるのか課題(ホームページ・ブログの活用等)は残ったままである。

～全体を通して～

今年度も新型コロナウイルス対応に追われた1年であった。基本的な感染防止対策の徹底と確認を行いながら保育に努めたが、クラスターの発生に伴いクラス閉鎖や職員への感染も起きた。そのような状況下でも保育所には児童福祉施設として社会機能の維持に重要な役割を担うとともに乳幼児の集団生活施設として子どもたちの健康と安全の維持を図るという重要な役割を担うことが求められているなかで、改めて幼児教育はいかにあるべきか、コロナ禍においても大切にすべきことは何か、保育活動は目指すべき目的に向かっているのかを全保育士と確認し合いながら、コロナ禍においてもプラスに転じることが出来るチームの形成を今後も目指していく。

令和4年度 蓮の音こども園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 30名

《職員》 園長 主任・児童発達支援管理責任者 リーダー 保育士・児童指導員
管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

| 市町村 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 上田市 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 444 |
| 長和町 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 坂城町 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| 合計 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 480 |
| 実開園日数 | 21 | 23 | 26 | 24 | 21 | 22 | 24 | 24 | 24 | 22 | 20 | 19 | 270 |

3. 入退園の状況

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|---------------------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|----|----|
| 入園 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 退園 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 11 |
| 退園理由 | 保育園等他事業所移行 4名 就学 7名 | | | | | | | | | | | | |

4. 通園車走行状況

1号車（セレナ）6,683km 2号車（セレナ）5,236km

5. 年間行事実施状況 ※コロナ感染症により、中止・延期・縮小等により実施

| 月 | 内 容 | 月 | 内 容 |
|---|------------------|----|------------------------|
| 4 | 入園式 親子遠足(中止) | 10 | 合同避難訓練 きょうだい児交流会 |
| 5 | 運動会(クラス別実施) | 11 | どろんこ祭(クラス別) 七五三(縮小) |
| | 花まつり(縮小) 家庭訪問 | | クリスマス会 |
| 6 | 家族参観(きりん組・らいおん組) | 12 | 上田ライオンズクラブ(ツリー飾りつけ) |
| | プール活動(縮小) | | 成道会(中止) 防犯訓練 |
| 7 | 七夕(縮小) | 1 | ものづくり どんど焼き ももたろう展 |
| | 家族参観(うさぎ組) | | 家族参観(きりん組・らいおん組) |
| 8 | 防犯訓練 | 2 | 豆まき 涅槃会(縮小) 家族参観(うさぎ組) |
| | 魂まつり(中止) | | バイキング給食(クラス別) |
| 9 | 親子遠足(クラス別) | 3 | ひな祭り お楽しみ会 卒園式 |

6. 職員研修等

法人内研修：虐待防止・メンタルヘルス研修会 等

施設内研修：事例検討会、障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修

施設外研修：全国児童発達支援協議会、療育・発達専門部会研修会、全国知的障害関係施設長等会議、サビ管更新研修、業務継続計画（BCP）策定研修、苦情対応システム研修会、等

人数制限により対面研修もあったが、オンライン研修は受講のしやすさがあり、数多くの研修を受けることができた。職員間で共有することにより有効な学びとなった。

7. 施設整備・物品購入

・業務用冷凍・冷蔵庫

8. 療育援助結果及び課題

① 発達支援

令和4年度は全園児の52.5%が発達障害の確定診断を持ち、未診断7.5%を含むと60%の園児が特性に応じた専門的な支援を必要とした。その他40%の中には診断名も幅広く、医療的ケアの必要な園児が3名含まれている。指針となる「児童発達支援ガイドライン」の5領域を基に、子どもを理解するという点においては、発達検査やアセスメント表などの客観的な視点と、実際の子どもたちの様子、関わりから理解を深め根拠のある支援を職員間で共有できるようにしてきた。個別やグループ活動、クラス集団の活動を段階的に配慮することで、安心感や成功体験を積み重ね意欲を引き出すきっかけになっている。また、甘露保育園の子どもたちとの関わりにおいてはコロナ禍の影響もあるが、職員の意識としても更に自然体に関わり合えるような取り組みを図っていくことが課題となる。幅広い疾患の状況や医療的ケア児が多いことから、安心・安全に生活経験を広げるために看護師と連携して取り組めたことは、チーム支援としての専門的な役割が果たせたと感じる。就学・保育園等の移行支援については地域の実情が様々であり、体験の機会を得ることにばらつきが見られた。

② 家族支援

様々な家庭状況がある中で、保護者が求めている思いに寄り添い、できる範囲の支援を具体的に共有できるようにしてきた。実際の園生活を伝える手段としては、動画や写真等で伝えることにより、家庭では見られない子どもの「できている部分」を喜び合う共有のし易さがあった。学習会としてのペアレントトレーニングは、園独自の4回シリーズで実施している。保護者自身の成功体験が前向きに子どもと関われるきっかけとなることや、同じ悩みをもつ保護者同士の関わりは、お互いの思いに共感しながら子育てへの後押しになっていく。参加者が限定される傾向にあるため、継続して参加しやすい工夫も必要である。また、個別性が高い家庭においては、関係機関と連携し家庭生活を見守り安心して過ごせるように支援してきたが、児童相談所や行政の見守りが子育てに臆する心情となるケースもあり、親子の関わりについてサポートも必要になっている。また医療受診に同行することで適切に情報共有が得られるようにしている。家族支援の一環としてきょうだい児交流会は、きょうだい児と保護者のスペシャルタイムとなり継続の意義を感じる。

③ 地域生活支援

支援を必要としている子どもの療育体験【のびのび教室】は、感染症に留意しながら可能な範囲で対応した。グループ分けにより実施したことで個々の回数は少なくなっているが、利用児の発達段階にばらつきがあるため活動のしやすさがあった。また、地域生活への移行支援や当園を研修の場とし支援者の資質向上及び、双方の情報交換の場として関係機関と連携し、児童発達支援センターの役割を推進できるよう努めていく。

9. 療育サービス等の利用状況について（※コロナウイルス感染防止のため中止もあり）

① おもちゃ図書館

- ・甘露保育園遊戯室 年4回開催（9月11月12月は中止）
⇒ 来館者 180名 ボランティア のべ17名
- ・青木村図書館への派遣 ⇒ 今年度も中止

② 療育相談 … P T 外来相談 / 3回

③ あそび虫 … 年6回開催（8月12月は中止） 子ども65名 大人65名

④ のびのび教室 … 年21回開催（5回中止） 参加児数 のべ75名

～全体を通して～

令和4年度はコロナ感染拡大が多い年ではあったが、行事や学習会等、工夫して取り組んできた。子どもの特性や障がい、家族の状況も多様化している傾向にあるため個別対応が多くなっている。傾聴の姿勢を意識し、職員の役割分担や連携、柔軟な対応により信頼される支援を心がけ、子どもたちの豊かな経験ができるよう、チーム支援として創意工夫に努めていきたい。

令和4年度 保育所等訪問支援 事業報告書

1. 構成

《職員》 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先

上田市公立保育園（1） 認定こども園（1） 上田市私立幼稚園（1）
 長和町公立保育園（1） 坂城町公立保育園（1※双生児） 計 5ヶ所・6名

3. 支援実施回数 ※公立保育園は上田市、長和町、坂城町。昨年度からの継続は3園。

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|--------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|------|
| 公立保育園 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 | 4 | 2 | 2 | 24 |
| 認定こども園 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| 私立幼稚園 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 8 |
| | | | | | | | | | | | | | 計37回 |

※7月～11月キャンセルあり。認定こども園3月終結、他園は令和5年度も継続。

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

訪問事業は、発達が気になる子どもたちの地域生活を支援するために、具体的な支援を保護者と園全体で共有できることを目的としている。本人のペースや強みを尊重することにより、好きな遊びや活動を楽しみながら保育士と一緒に「できた」「楽しかった」の成功体験を得られるようにした。次のステップとして友だちへの興味・関心が芽生えるようになると、見通しを持つための視覚支援の活用や具体的な切り替え方法を提案し、集団参加に向けての調整を進めた。環境設定や子どもとの距離感、声かけのタイミングなども、場面に応じて直接的に支援することで子どもの反応が分かりやすく、保育士が自信を持って関わるようになり信頼関係を深めていった。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

訪問依頼は主に母子保健や行政を通じて寄せられることが多く、事前のアセスメントや支援会議を通して訪問開始となる。園の方針を尊重しつつ現状を捉えた上で具体的な支援の提案を行った。対象児以外にも発達の緩やかな園児が複数名在籍している園が多くあり、全ての園が複数担任制であることから発達支援の重要性が浸透していると感じる。一方で複数担任でも職員間や園全体に支援の共有が難しく、対象児に「付き添うことが個別支援」と捉えているケースも見受けられた。目標に向けての合理的配慮や特性にあった支援、環境調整等を提案し、クラスの仲間として意識できるよう伝えた。カンファレンスでは課題に対しての取り組み方を書面や具体物で示し、関係機関とは定期的なモニタリングで現状を共有し対象児の成長を喜び合うことができた。

③ 専門性の向上

集団参加をどのように提案すれば良いか、クラス集団の流れと個別対応のすり合わせ方に迷う場面があったが、信頼できる保育士の存在が子どもたちの安定に繋がることから、対象児の思いに寄り添い共感し、場面に分けて個別と集団参加を無理なく取り組めるように進めてきた。職員や保護者が見通しを持てるようになると改善に繋がるため、自信と成功体験が得られるよう保育士の関わりを褒め、肯定的に伝え良好な関係性に努めた。クラス運営の環境に合わせた見極めが必要になる。

◎ 考察・まとめ

訪問先の環境や発達支援についての理解や取り組み方も様々ではあるが、園生活の様子や職員の努力している取り組みをカンファレンスで共有すると、園と保護者の信頼関係が成り立ち好循環に繋がる。全体的な傾向として、どの園でも対象児の他にも支援を必要としている園児が複数名在籍していることから、クラス全体の底上げもできるように配慮した。保育士の手応えがあって子どもの育ち、家族の安定に繋がっていく。今年度は特に、保育士が成功体験を積み重ね子どもの変化を実感することで、保育士自身が変わっていくことを目の当たりにしたことは訪問の意義が大きい。その意味を園全体で共有し、連携することの必要性を発信していきたい。今後も訪問支援が保護者や保育士の心の拠り所となるよう、きめ細やかな配慮で支援を提供していきたい。

令和4年度 ともいき宝池慈光 事業報告書

1. 事業所の構成 生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 26名
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 年間 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 上田市 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 264 |
| 東御市 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 14 |
| 千曲市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 坂城町 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| 合計 | 27 | 27 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 314 |
| 延べ人数 | 424 | 391 | 454 | 421 | 394 | 411 | 413 | 346 | 355 | 378 | 379 | 449 | 4,815 |
| 開所日数 | 25 | 23 | 26 | 25 | 23 | 24 | 25 | 22 | 24 | 23 | 22 | 26 | 288 |
| 1日平均 | 17 | 17 | 18 | 17 | 18 | 18 | 17 | 16 | 15 | 17 | 18 | 18 | 17 |
| 利用率 | 85% | 85% | 90% | 85% | 90% | 90% | 85% | 80% | 75% | 85% | 90% | 90% | 85% |

3. 入退所の状況

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 年間 |
|----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 入所 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| 退所 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |

4. 年間行事実施状況 ※コロナ感染防止対策として行事の中止・延期等あり

| 月 | 内容 |
|----|----------------------------------|
| 4 | お花見 誕生日会 |
| 5 | 健康診断 誕生日会 花まつり 避難訓練 |
| 6 | 誕生日会 青空食事会 |
| 7 | 誕生日会 夏祭り 避難訓練 |
| 8 | 魂まつり 誕生会 |
| 9 | 防災行事 内科検診 事業団健診 誕生日会 避難訓練 虐待防止研修 |
| 10 | 誕生日会 わっしょい・わっしょい祭り |
| 11 | 誕生日会 福祉大会 避難訓練 |
| 12 | メンタルヘルス研修 誕生日会 |
| 1 | 新年会 誕生日会 |
| 2 | 節分豆まき 誕生日会 涅槃会 |
| 3 | 慰労会 誕生日会 |

5. 重点目標の反省

◎ 「個別支援計画の充実と利用者が自己選択できる機会と場所の提供」

相談支援と連携しながら、サービス等利用計画を基に個別支援計画の作成を行い、利用者の自己実現に向けて検討を重ね支援方法の統一や方向性がぶれないように努めた。また、意思決定支援については、日常の生活の中で行っていることが意思決定に繋がるため、関係性や意思を尊重しようとする姿勢を大切に、選択できるだけの経験を積み重ねていけるようにしてきた。実際に経験した上で、自分の意志を決定できるようになる過程を大切にしたい。

利用者が地域の中で活躍出来る機会として「気まぐれ屋」の活動を行っているが、コロナ禍の影響により、地域と関わりを持つことが難しかった。その中でも店員として参加する利用者には目的や目標を担当者と考え、一人ひとりの個性や考えを尊重し自己選択しながら活動が出来るように努めた。活動場所としての活用については、地域交流や少人数での活動の場としてきた。

◎ 「関係機関連携における家族支援の充実」

利用者を取り巻く環境の変化は刻々と進んでいる状況である。行政はもちろんのこと、相談支援センターや介護サービス事業所担当者との連携にてセーフティーネットが構築され適切なサービスへつなぐことができていく。当事業所においても同様なケースがこの数年で予測される。関係機関との連携により適切なサービスが提供され、安心して生活が送れる準備と、将来を見据えた支援内容をご家族も交えて話し合い、ご本人が新しい生活に向けた希望や展望を持てるように経験を積み重ねることが必要になる。

◎ 「支援記録の充実と効果的な活用を図る」

利用者がそれぞれに抱えている課題や支援経過を職員間で共有・検証していく事が根拠ある支援につながる。そのためのツールとして支援記録は非常に重要なものとなる。支援経過記録の蓄積と記録内容の質を上げていくことで、根拠ある支援を確立し利用者の思いや願いに寄り添う機会をさらに増やしていく。

6. 利用相談

上田養護学校高等部より卒業後の進路相談、上田養護高等部実習の受け入れを行った。コロナ禍であり、感染状況をみながら受け入れを判断していった為に、予定通りの実習をすすめることは出来なかった。卒業後、利用希望がある生徒については丁寧に情報提供やフォローを行っていききたい。

また、慈光利用者・ご家族の高齢化も顕著であり、生活環境の変化に伴い今後入所施設等へ移行を検討するケースが増えることが想定出来る。今年度、家庭環境の変化により1名が入所施設へ移行している。事業所間の情報共有を密に行い、体験利用をすすめる事でご家族・ご本人が将来の展望をもって移行を迎えられるように体制を整えていきたい。

7. 健康・安全

各種マニュアル（保健・危機管理・要望解決・虐待防止）の見直しと、特に感染症予防対策（新型コロナウイルス）に力を入れた。新型コロナウイルス対策は新田会議を継続的に行い、新田事業所がコロナ感染症対応を統一した考えのもとで行ってきた。また、法人外の事業所とコロナに係わる情報共有も行い、必要に応じた協力体制を築く事が出来た。

事業所内でコロナ感染防止に努めてきたが、クラスターが発生し2日間の営業停止を余儀なくされた。利用者、職員ともに感染者を出してしまったが感染拡大は防止出来た。今後は5類移行後の対応について、新田事業所としての対応を検討していきたい。

8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催研修会、法人内研修（初任者研修・虐待防止研修・メンタルヘルス研修）事業所内研修（事例検討会・苦情システム研修・感染症対応研修）長野県が主催している「障がい者虐待防止・権利擁護研修」へ参加した。参加職員は伝達研修を行い、個人から全体へ知識を広げるとともに、プレゼン力を養う機会とした。令和4年度、介護福祉士資格取得を目指し受験した職員は、資格取得へ向けた個人のモチベーションの確保とフォロー体制を整え、合格する事が出来た。

ハイブリッド開催が主流になってきている。参加職員が充実した研修となるようにネットワーク環境を整備し、参加が容易になった利点を活かし学びの機会を増やしていきたい。

令和4年度 ともいき宝池和順 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 30名

《職員》 所 長 サービス管理責任者 リーダー支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

| \月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 上田市 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 360 |
| 千曲市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 東御市 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| 坂城町 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| 青木村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 立科町 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 合 計 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 37 | 444 |
| 延 べ 数 | 674 | 623 | 748 | 682 | 620 | 607 | 667 | 654 | 655 | 604 | 626 | 734 | 7,894 |
| 開設日数 | 25 | 23 | 26 | 25 | 23 | 24 | 25 | 24 | 24 | 23 | 22 | 26 | 290 |

3. 入退所の状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|
| 入 所 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 退 所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

4. 年間行事実施状況 ※コロナ感染防止対策として行事の中止・延期等あり

| 月 | 内 容 | 月 | 内 容 |
|---|-----------------|----|--------------------|
| 4 | 春のお茶会 | 10 | 秋のお茶会・わっしょいわっしょい祭り |
| 5 | 希望外出 | 11 | アリオ販売 |
| 6 | 希望外出 | 12 | 利用者忘年会 |
| 7 | | 1 | 新年のお茶会（初詣） |
| 8 | | 2 | 涅槃会 |
| 9 | 希望外出・内科検診・事業団検診 | 3 | 年度末慰労会 |

5. 職員研修

長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会（ZOOM）、法人内研修、事業所内研修

6. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

| | |
|------|--|
| 受託生産 | 工業用紙袋加工作業 《鈴与マタイ(株)》 |
| | 箱折り作業 《丸福(株)、コムパック(株)、(株)塚田メディカル・リサーチ》 |
| | 小牧山霊園作業 《宗教法人願行寺》 |
| | 清掃作業 《長野県工科短大》長野県セルフセンター |
| 自主生産 | 味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売 |
| | 珈琲焙煎作業、クッキー製菓作業（販売・配達） |

② 作業実績

◎収 入

| | |
|------|--------------|
| 受託作業 | 2,093,864 円 |
| 自主生産 | 13,747,704 円 |
| 合 計 | 15,841,568 円 |

◎支 出

| | |
|------|--------------|
| 作業工賃 | 5,642,771 円 |
| 諸経費 | 10,198,797 円 |
| 合 計 | 15,841,568 円 |

7. 支援結果及び課題 (『 』内令和4年度重点目標)

① 『コロナ禍における生産活動の開拓』

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、自主生産活動である味遊カフェのテイクアウト営業への切り替え対応や受託生産活動の規模縮小・受注終了という厳しい事態が続いた。そのため、新規受託作業（塚田メディカルの箱折り）を開拓し、作業種目を確保することができた。カフェの営業では年間252日の中で通常営業が54日テイクアウト営業が198日ということになった。通常営業ができないことで利用者の動きにも変化があり、利用者が混乱する場面もあった。月曜日を定休日とすることにより利用者のスキルアップを図った。昨年に引き続き新たな作業種への取り組みの話を前に進め、利用者の工賃をアップできるように支援の展開を図っていく。更に、社会情勢が不安定な原因で起きているコーヒー生豆高騰に対しても原価率を見ながら対応した。

② 『ご家族及び地域との連携』

昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により地域とのイベントとして開催していた「てととと市」やボランティア交流会・学校交流などのすべての行事を中止せざるを得ない状況であった。宝池親の会・和順部会においても「総会」「研修会」「懇親会」などの行事が中止になった。役員会等も行われたが、次年度は状況を見ながら家族会の活動を徐々に再開していけるように連絡を密にとっていく。

8. リスク・健康・安全管理

コロナ禍において、感染状況に合わせて公共交通機関の利用自粛をお願いした。それに伴い、和順の送迎対応を実施し感染予防対策をおこなった。公共交通機関利用時においては、利用者の日々の通所経路安全確認と必要に応じて同行の実施を行い、安全に通所できるように支援に取り組んだ。

豪雨や台風等の気象情報等を的確に入手し、適切な対応とご家族の協力を頂きながら、より安全な通所支援と事業所運営に心掛けている。避難確保計画と非常災害対策を作成し、上田市危機管理防災課へ提出した。BCPについては、令和6年度より義務化になるため整備していく。

新田会議にて慈光・事務局共有の下、感染症対策対応を統一し、徹底的な予防の推進を進めてきた。

各種健康診断を実施し、その結果を受けてご家族に受診を進めるようにした。

9. その他

地域に開かれた事業所をめざし、新規利用者の開拓の促進を実施していくにあたって、令和4年度は4月より1名の方の新規利用となった。また、作業種目においてもコロナウイルスにおける作業種目減少において、新しい新規自主生産活動を模索していく。各機関との連携も積極的に実施し、地域のニーズを把握できるよう努めていく。

令和4年度 ともいきライフ 月影 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 60 名
 (施設入所支援) 定員 50 名
 (短期入所) 定員 6 名

《職員》 管理者 主査 主任 サービス管理責任者 支援員
 准看護師 看護師 保健師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

| 市町村\月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 上田市 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 300 |
| 長野市 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 72 |
| 須坂市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 飯山市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 千曲市 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 14 | 162 |
| 坂城町 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 175 |
| 東御市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 小諸市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 原村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 松本市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 小谷村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 青木村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 合計 | 67 | 67 | 67 | 67 | 67 | 67 | 67 | 66 | 66 | 66 | 66 | 67 | 800 |
| 延べ数 (生活介護) | 1,276 | 1,316 | 1,283 | 1,292 | 1,276 | 1,219 | 1,109 | 1,219 | 1,206 | 1,209 | 1,155 | 1,333 | 14,893 |
| 延べ数 (施設入所支援) | 1,489 | 1,523 | 1,452 | 1,506 | 1,514 | 1,490 | 1,486 | 1,437 | 1,457 | 1,439 | 1,363 | 1,513 | 17,669 |

3. 入退所の状況

| \月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| 入所 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 1 | - | 2 |
| | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 |
| 退所 | - | - | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | 2 |
| | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 0 |

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

| 区分\月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|----|----|
| 成人 | 0 | 0 | 6 | 8 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 14 | 37 |
| 児童 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 6 | 8 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 14 | 37 |

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業等

その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸、調理訓練等

6. 職員研修

知障協研修・・・自閉症支援セミナー、強度行動障がい支援者養成研修、支援スタッフ部会等

法人内研修・・・専門研修 初任者研修 チームリーダー研修 要望等解決定例会、虐待防止・
 身体拘束に関する研修等 業務管理研修 メンタルヘルス研修

法人外研修・・・虐待防止伝達研修 苦情システム対応研修 千曲・坂城地域自立支援協議会

7. 年間行事実施状況（コロナ禍において、開催方法は月当番企画で工夫する）

- 4月・・・村上保育園入園式 村上小学校入学式 坂城幼稚園入園式については自粛開催
個別グループお花見（縮小）「春のお花見屋台」月当番企画 救急講習
- 5月・・・月礼会 「ご家族にメッセージを送ろう」月当番企画 救急講習 訪問リハ①
- 6月・・・ともいきグループ、あおぞらグループ食事会① 訪問販売会（おひさま販売会）
村上小学校交流会（Web）月礼会（草刈り）あすなろG食事会 月当番企画
- 7月・・・「夏だ！スイカ割をしよう」（月当番企画） 納涼会（涼み会代替え行事）
あおぞらグループ食事会② 歯科検診 月礼会（草刈り）ワクチン接種
- 8月・・・「手持ち花火大会」月当番企画 ワクチン接種 所内事例検討会
業務管理研修会
- 9月・・・ともいきグループ食事会 月当番企画 北レク体操教室（Web）
法人虐待防止研修 月礼会中止（体育館掃除）事業団検診延期
月影部会日帰り旅行中止
- 10月・・・おひさま販売会延期 月影まつり中止 家族部会役員会中止
※新型コロナクラスター発生
- 11月・・・つきかげ焼き芋大会 「紙芝居」（月当番企画）インフルエンザ予防接種
月影部会役員会 県知的障がい福祉協会福祉研究大会
村上小学校交流会（Web）
- 12月・・・法人メンタルヘルス研修 忘年会（縮小版）
※新型コロナクラスター発生
- 1月・・・「仲間の成人を皆で祝おう」（月当番企画） 内科検診
- 2月・・・「豆まきだ！皆で福を招こう」（月当番企画） あおぞらグループ食事会
訪問リハ さんきゅうアート（展示会）内科検診 ともいきグループ食事会
- 3月・・・利用者自治会選挙 「つるし雛を飾り、ひな祭りを楽しもう」（月当番企画）
村上小交流会③ 訪問リハ④ お疲れ様会（特別イベント） 内科検診
コロナワクチン接種 親の会役員会 月影部会役員会（総会中止）

8. 支援結果及び課題（『 』内、令和4年度重点目標）

◎『利用者の暮らしの充実』

今年度は日常の生活環境を快適にすべく、生活委員会や環境整備委員会を中心に、シーツ・カバー交換、寝具の入れ替えなど年間計画に沿って実施した。しかし、新型コロナ感染症のクラスター発生に伴い、衛生管理（入浴制限、歯磨き支援など飛沫による感染防止を優先）や食事の提供方法（小人数や個室での弁当形式での提供）等の場面において、今まで体験したことのない状況下での生活となり、ご心配、ご不便をお掛けしてしまった。コロナに関連して、買い物外出や、帰省などの自粛を引き続きお願いすることが多かった。

地域・ボランティア関連では、小学校との交流が難しかった中、Webを使ったオンライン交流にチャレンジし交流を図った。実際的人数参加に於いては、1回目の交流から2回目の交流へと大きく内容を発展充実させ、想像以上にお互いの信頼を構築する事が出来た。

◎『日中活動の充実』

利用者さんの本来持っている力に着目し、誰もが機会とチャンスを実現できるようにチームとして取り組んだ。小規模ではあったが、あおぞら農園での栽培作物を、食事の場面で活用して頂いたり、販売を通してやりがいに繋がった。利用者自治会では、利用者一人ひとりの声を丁寧に聴くことを通じて、自分の意見を皆に聞いて貰ったとの満足感を醸成した中で、意思決定をご自身が形成し、表出する支援の展開を意識し取り組んだ。日々の積み重ねを大切にしたい。

◎『ご家族と地域との連携』

本年度も新型コロナ禍において、感染防止の観点から人との交流を制限せざる負えない状況の中、村上小学校の地域交流ではオンラインによる試みを行い、普段小学校に行くことが難しい利用者も参加する事が出来た。月影家族部会との交流では、事業所周囲の草刈り等の環境整備において、多くのご家族の協力を得る中、家族同士の繋がりの維持が出来た。ホームページの活用については、日常の様子をブログにて定期的に発信を行った。

令和4年度 ともしきライフ住吉 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 30 名
 (施設入所支援) 定員 30 名
 (短期入所) 定員 4 名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員 支援員
 看護師 准看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

| 市町村\月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 上田市 | 23 | 23 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 266 |
| 東御市 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 46 |
| 佐久市 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 佐久穂町 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 辰野町 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 筑北村 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 合計 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 360 |
| 延べ数 (生活介護) | 638 | 667 | 634 | 672 | 690 | 660 | 690 | 660 | 688 | 677 | 594 | 647 | 7,917 |
| 延べ数 (施設入所支援) | 870 | 899 | 890 | 925 | 930 | 900 | 928 | 900 | 921 | 906 | 817 | 886 | 10,772 |

3. 入退所の状況

| \月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|
| 入所 | — | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| 退所 | — | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人員）

| 区分\月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|----|----|----|----|---|---|----|----|----|---|---|----|-----|
| 成人 | 30 | 27 | 16 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 110 |
| 児童 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 30 | 27 | 16 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 110 |

5. 実施した作業支援種目

作業・・・園芸作業、椎茸作業、農作業

その他・・・リハビリ支援、歩行支援、高齢者グループ支援、食事・おやつ作り、足浴支援、自治会、敬老会、学校交流等の地域交流活動については、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い昨年度同様中止となった。同様に利用者さんとの外出や外食についてもテイクアウト等の対応に変更し実施した。

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・初任者フォロー研修・中堅職員研修①②・虐待防止研修・メンタルヘルス研修・法令遵守マニュアル研修

施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・県虐待防止伝達研修会・通報訓練、避難訓練

施設外研修（長野県知障協主催各種研修会・その他）

『知障協』精神科領域実践支援セミナー・自閉症支援セミナー・新任職員セミナー・代表者会議・リスクマネジメントセミナー・強度行動障がい養成研修（基礎・実践）

『その他』長野県障がい者虐待防止・業務継続計画策定研修・一般指導監査実施・感染症及び食中毒の発生、まん延防止に係る研修会・サビ管更新研修・実習生受入説明会

7. 年間行事実施状況

| 月 | 内 容 |
|----|---|
| 4 | お花見外出：東御中央公園、びんぐし公園、出早公園、陽泰寺 |
| 5 | 外出（キティパーク・信州音楽村）・心電図・内科検診・家族会環境整備 |
| 6 | 外出（バラ公園・キティパーク・信州音楽村）・歯科検診・リハビリ講習 |
| 7 | 夏祭り・婦人科検診・乳房検診・知障協施設長研修 |
| 8 | 防災設備点検 |
| 9 | さつまいも掘り |
| 10 | 住吉まつり（所内のみで開催）・住吉家族部会 紅葉狩り：信州音楽村・上田城址・住吉周辺 |
| 11 | サツマイモ掘り・リハビリ講習会・知障協福祉大会 |
| 12 | コロナクラスターが発生の為、イベントが中止 |
| 1 | コロナクラスターが発生の為、イベントが中止 |
| 2 | 豆まき |
| 3 | お疲れ様会・リハビリ講習・親の会総会・住吉家族部会総会 |

・月単位行事 避難訓練・誕生日会・体重血圧測定

※コロナ禍に伴い、地域との行事は中止となった。

※年間通して食事作り（マカロニグラタンとミネストローネとオレンジゼリー、冷やし中華とつくね、キーマカレーとゆで卵入りポテトサラダとシュガーパイ）や少人数食事会（おやつ会・飲食店弁当テイクアウト）を実施。

8. 支援結果及び課題（『 』内、令和4年度重点目標）

◎『コロナ禍における利用者支援の展開を図る』

施設入所利用者さんの年齢が22歳～86歳、平均年齢が59.3歳となっている。最高年齢は86歳となり、60代から80代の利用者さんが15名となった。今年度は、5月に1名長期入院となり医療的処置が必要となったため退所され、6月に新規1名入所された。障害支援区分は平均5.4と変わらないが、より高齢化および重度化が進んでいる状況である。行動障がいのある利用者さんと高齢利用者さんの共生生活になっており、より安心・安全に過ごせるように環境を整え、チームで支援にあたるように努めている。日中活動においても「生産活動」「創作活動」「機能訓練」を中心にご本人が出来ることは見守り、その方のエンパワメントを意識して支援を展開している。さらに利用者さん主体となるよう、より満足感や達成感のある支援に努めていきたい。

ご家族との関係は、ご家族の高齢化も進んできており、連絡先が兄弟姉妹や甥、姪に移行しているケースも増えてきた。金銭管理を含めた後見制度を利用する利用者さんも増えた。コロナ禍で以前のような定期外出や面会はできない状況でしたが、感染状況を鑑みて面会等を実施することができた。11月末から1月にかけて施設内でクラスターが発生したが、幸い重症化する利用者さんや職員がおらず安堵している。改めて日頃より感染症対策を意識し、医療、行政機関等と連携しながら訓練を実施するとともにメンタルフォローも行っていきたい。5月には、2年ぶりにご家族と環境整備を実施することができ、近況報告をしながら作業をすることで親睦が深められた。日頃からご家族と連絡をして状態変化にも注目し、ご家族への支援やサポートもしていく。地域から新しい作業の依頼もあり、利用者さんの活動のやりがいにも繋がった。地域交流会も徐々に行い、繋がりや関係性を再構築していきたい。

◎『コロナ禍における研修方法を考えていく』

オンライン研修に安心して参加できるようにインターネットの環境を整えた。知障協が主催の自閉症支援セミナーと精神科領域支援セミナーの通年受講に2名参加した。理解を深めたい利用者さんをレポートにまとめ、その方の人生を改めて振り返る機会となった。また、「まとめ力」「チーム支援」の重要性を再認識し支援の質の向上となる良い機会になった。職員会ではまとめたレポートを使い伝達研修を行い共有もできた。今後は、共有できた事を般化できるよう繰り返し取り組んでいく。（PDCAサイクルを繰り返す）

研修は一人ひとりが参加できていない状況なので、職員と面談を通して1回は外部研修に参加できるように配慮をしていきたい。また、研修報告や伝達研修方法は職員間で工夫し、より本人主体の支援を展開できるようにチームで実現力を高めていく。特に虐待防止の研修が義務化され、より利用者さんの権利擁護、人権意識を高めるような研修を実施していく。住吉紹介動画は、完成するよう努力したい。

1. 事業所の構成

◎新田ホーム（定員 3名） 利用者男性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）

◎和ホーム（定員 3名） 利用者女性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）

《職員》 ホーム長 サービス管理責任者 生活支援員 世話人

2. 利用の状況

昨年同様、入退所となる利用者がいなかったため年間通して定員6名に対して実員6名の推移となった。男性利用者の平均年齢は50歳、平均障害支援区分は3.3であった。女性の利用者については平均年齢69.3歳、平均障害支援区分は4.3となった。高齢化に伴う心身状況の変化や新型コロナウイルス感染症の影響で買い物等の外出や実家への帰省も制限せざるを得ない状況であったが、ご家族とのつながりを継続して保てるように定期的な連絡に努めた。

3. 生活費用（毎月の一人当たりの負担額）

| | 新田ホーム | 和ホーム | 備考 |
|-----|---------|---------|----------|
| 生活費 | 35,000円 | 35,000円 | 食費・光熱水費等 |
| 家賃 | 18,000円 | 18,000円 | 定員割（3名） |

4. 利用者の傾向

閑静な住宅地に位置している当法人のグループホームは、交通アクセスのよい環境にありショッピングセンターに近く交通量も多い。視覚に障がいのある利用者が2名生活していることもあり、転倒や交通事故にあわないように以前に増して安全配慮が必要となっている。ホーム利用者は6人中5人が法人内の事業所を利用されているが、身体機能低下や認知機能低下などの高齢化に伴う課題に対応していくには、日中の活動している事業所とホームとの連携をさらに深めていかななくてはならない。市内へ通勤している1人の利用者は、自転車保険義務化に伴う加入継続手続きとヘルメットの着用について説明をしたが、ヘルメットが入荷待ち状態で購入には至っていない。

コロナ禍ではあったが、地域（近所）との関係性を良好にすることを大切にした関わりの実施が重要となる。地域での清掃活動や自治会の行事については、感染状況に応じた形にはなるが参加した。

5. 支援結果及び課題（重点目標の反省）

『グループホームが心安らぐ場所であるよう、人間関係の調整に力を注ぐ』

本人主体の地域生活。「暮らし」という視点で、グループホームは地域での重要な生活拠点である。買い物や外出等は職員が配慮をしながら比較的自由にさせていただいているが、今年度も新型コロナウイルス感染症感染予防のため、行動に制限がかかる中、利用者の要望を職員がサポートしながら買い物代行等を行った。また、小集団である悩みも多く、人間関係の調整は悩みが尽きない。コロナ禍において生活に制限がかかっている現状にストレスを感じる事への理解と申し訳ない気持ちである。他人を思いやる気持ちの大切さを伝えても、その思いを共有し解決に至るのは困難である。世話人や通所職員と課題の共有をして、できる限り目配り・気配りをして関係性の改善をしていきたい。

『感染症予防・介護予防等の考え方を支援に活かしていく』

毎日の健康チェックの継続と、異変に対して医療機関につなげる事をスピード感を持って対応した。65歳を超える方が3人いる中で、日常的な健康観察を重視しつつ、利用者の主訴を傾聴し、チームで（看護師のアドバイスを頂き）対応してきた。食生活においては、過食防止に配慮しながら家庭的で、バランスの良い温かい料理の提供を継続していく。コロナ禍で外出等ができない中、屋外での食事を提供し生活に変化と張りを持たせるようにした。感染症対策では、高齢で基礎疾患を持っている利用者もいるので、コロナワクチン接種や具体的な感染症予防（換気・手洗い・密を避ける）を提示し、利用者・世話人でコロナの状況を共有し、「感染しない」行動をするために利用者と話し合いを重ねた。

『社会情勢を踏まえながら、地域との関わりによる生活の充実感を得るために、行事（お花見会・忘年会・青年会）等の地域参加をより前進させていく』

「地域参加」としては、行事への参加を主として行って来た。地域の方の受け入れも好意的であったが、新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、行事の参加を見送るケースもあった。地域での清掃活動の参加に関しても、地域の一員として認識を高めるための大切な地域参加であったが参加を見送ることとした。降雪時に近所の雪かきや草取りなど世話人と一緒に行ったり、利用者さん自ら環境整備をされている姿を見かけるので、その気持ちを感謝と共に見守っていききたい。

『防火・防災・防犯における地域との連携を構築していく』

避難確保計画・非常災害対策計画を作成し上田市危機管理防災課へ提出した。防災への備えを利用者と世話人が理解して、いざという時に混乱を少なくするようにする。食料等の備蓄についてもローリングストックの考え方で対応している。コロナ禍で地域との連携がなかなか取りづらいところではあるが、自治会との連携は継続して関係を深めていきたい。

6. 職員の研修

長野県が毎年開催している「障がい者権利擁護・虐待防止研修会」に参加し、伝達研修を行った。また、新田ホーム・和ホームに意見箱の設置や、日頃、利用者の声を職員会議で共有してサービスの質・支援力向上に努めた。目標管理シートを作成し、職員面談や支援の振り返りを行い、悩みごとの共有を行った。

7. 施設整備

グループホームでの火災は大惨事になりかねない。和ホームに関してはスプリンクラー設備を設置している。日頃実施している避難訓練で出来ていないことは有事でも出来ることはないので、日中や夜間等において防火・防災意識を高めていくように訓練内容を考え実施をしていく。

8. 今後の展望

利用者の話を聞き、気持ちにどう寄り添うかが大切であるので、通所事業所との情報のやりとりや支援の在り方を共有し利用者の障がい特性を理解した上でサービスの質向上に努めていきたい。生活の場であるので、利用者同士の関係性は今後においても難しい事が予想されるが、どう折り合いをつけるか、傾聴し納得できるようにしていきたい。新型コロナウイルス感染症対策では、BCP計画策定、感染予防と実践・衛生用品の確保、感染時におけるシュミレーションの確認を事業所間や世話人同士でしておくようにする。

1. 施設の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任相談支援専門員 相談支援専門員

2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

| ＼月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 実施総件数 | 48 | 32 | 57 | 39 | 21 | 62 | 52 | 30 | 40 | 37 | 23 | 85 | 526 |
| モニタリング・者 | 23 | 23 | 27 | 29 | 17 | 26 | 29 | 16 | 33 | 35 | 22 | 23 | 303 |
| モニタリング・児 | 16 | 0 | 18 | 2 | 0 | 27 | 16 | 2 | 3 | 0 | 0 | 11 | 95 |
| モニタリング計 | 39 | 23 | 45 | 31 | 17 | 53 | 45 | 18 | 36 | 35 | 22 | 34 | 398 |
| 計画作成・者 | 8 | 8 | 12 | 8 | 4 | 9 | 7 | 12 | 4 | 2 | 1 | 10 | 85 |
| 計画作成・児 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 41 | 43 |
| 計画作成計 | 9 | 9 | 12 | 8 | 4 | 9 | 7 | 12 | 4 | 2 | 1 | 51 | 128 |

3. タイムケア事業実施状況

| ＼月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|---------|----|---|---|----|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 3年度(人数) | 3 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 16 |
| 4年度(人数) | 0 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 1 | 19 |
| 比較(4-3) | -3 | 0 | 1 | -2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 |

4. 相談支援の継続実施

- (1) 利用児者の意思及び人権を尊重し、利用児者の立場に立った適切かつ円滑な相談支援を提供し、公正中立な事業運営を目指す。

令和4年度は法人内事業所におけるコロナのクラスターが複数回発生し、特に成人施設については間接的な聞き取りを中心に行わざるを得ない状況があった。そのような中で十分なコミュニケーションが図れず、相談者の不安や不満が引き起こされることもあった。原則ケアマネジメント技法を用いて、相談者の不安の解消や支援の方向性を実感できる対応に努めるが、関わるべき時期を外さない対応が求められるということは言うまでもない。一般的な相談支援専門員の少数配置の他の相談支援事業所と比べると当方は、兼務者は多いが相談支援専門員数は比較的充実しており、所内における確認作業、代行等も含め柔軟な対応と調整が出来ることは当事業所の強みでもある。相談の対象者は多岐に渡り、ご本人の希望する暮らしの実現に向けた意思形成や意思表示に対する支援を丁寧に行う相談支援としての使命には未だ至らぬ点多々あり、相談とサービス事業所との連携の在り方については継続して課題として残った。

- (2) 行政及び基幹相談支援センター、地域の関係する機関との連携を図る。

昨年度に引き続き機能強化型(Ⅲ)の算定要件でもある、基幹相談支援センター等が実施する事例検討会への参加については、コロナのクラスター対応月以外は当事業所の相談支援専門員は順次積極的に参加した。基幹相談支援センターとのコミュニケーションは日常的に築き、互いに協力し合える関係性となっている。年間を通じて相談支援の質の向上を目指した実地教育を受け、自ら作成したサービス等利用計画等を開示し振り返りの機会を持つこと、また市町村の担当者も参加している事からモニタリング報告の検証の機会としての目的も理解しながら参画した。この機会を通じて他の相談支援事業所とも顔の見える関係性を築くことにより、より連携が図りやすい状況を作ることができた。

また、主任相談支援専門員を地域の福祉活動に派遣し、地域の人材育成等に貢献した。

5. 職員研修

- (1) 法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決定例会、所内研修
 (2) 法人外研修：上小圏域ケアマネジメント連絡会、県知的障がい福祉協会（代表者会・相談支援部会・情報提供型研修）、上小圏域自立支援協議会（療育発達専門部会研修・人材育成部会）、福井県立大学看護福祉学部／厚生労働科学研究費補助金事業・実地教育従事者養成研修 等